

2019 年度 PR 養成基礎研修「自然を見てみよう!」補足資料

2019/4/21

NPO 法人日本パークレンジャー協会

1. レイチェル・カーソン著「センスオブワンダー」より

センス・オブ・ワンダーとは、「自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性」
自分の感受性に磨きをかけるとは、目、耳、鼻、指、舌を使って自然を楽しみ味わうことである。
人は自然を目にしていながら、本当は良く見ていないことが多い。植物や昆虫など、見ているとその詳細は知らない。しかし虫眼鏡で微小な世界をみたり、自然の音や声に耳を澄まし、木の肌や葉に直接触れたり、それを匂い、野イチゴを採って食べるなど、身体で感じ取って覚えたことは決して忘れない。
「知ることは感じることの半分も重要ではない」

自然のいちばん繊細な手仕事は、小さなものの中に見られる。

2. 実語教(じつごきょう)より

実語教は、平安時代末期から明治初期にかけて普及していた庶民のための教訓を中心とした初等教科書である。実語教は、平安時代に作られたとされている。出典は仏教の経典や、儒教の教えを基にしているが、人が生きる上での処世訓として書かれている。

その冒頭の言葉に「山高故不貴 以有樹為貴」が書かれている。

山高(やまたか)きが故(ゆえ)に貴(たつと)からず
木(き)有(あ)るを以(もつ)て貴(たつと)しとす

山はただ高いから尊いのではない。木が茂っているからこそ尊いのだ。

森の働きが色々な機能を持っているということは今更言うまでもないが、1000 年以上前から日本人にこのような森(山)の教えが説かれていたことは大変に興味深い。

3. 本の紹介

- ① 「センス・オブ・ワンダー」 レイチェル・カーソン 著
- ② 「花と昆虫、不思議なだましあい発見記」 田中 肇 著
- ③ 大阪の自然ガイドブック (非売品)